

# インド概況

## 無印良品 – インドに店舗をオープン

無印良品を展開する株式会社良品計画（東京都豊島区／代表取締役社長：堂前 宣夫）は、Reliance Brands Limited（本社 マハラシュトラ州ムンバイ市／President & CEO Darshan Mehta、以下「RBL 社」）との合併事業で、インドの金融・商業の中心地であるムンバイにインド国内で過去最大面積となる「MUJI JIO World Plaza」（340 坪）を 11 月 1 日にオープンした。インド国内で初の売り場面積 300 坪超えの店舗で、インド内 4 店舗目の出店である。当店舗では、インドの他店舗で扱っている商品数の約 1.5 倍を取り扱い、衣料品のマネキン展示や家具、寝装用品のシーン展示を増やすことで、無印良品の世界観を感じて貰える店舗を目指す。また、インド国内で初めてとなるコーヒースタンドを 12 月初旬に併設する予定。

## 大気汚染対策措置を即時適用

インドのデリー周辺の大気汚染対策を所管する大気質管理局は 11 月 5 日、デリーにおける大気汚染の急速な悪化を踏まえ、対策として最も深刻なステージ 4（AQI450 超）の各種措置を即時適用する通達を発令した。

ステージ 4（AQI450 超）の措置は下記の通りである。

- トラック（ガス・電動車両以外）のデリー準州への入境禁止。
- デリー準州外で登録された小型商用車のディーゼル車両 BS-V 基準車両以外の同州への入境禁止。
- 中型・大型商用車（ディーゼル車両）のデリー準州内での走行禁止。
- 建設工事の停止（道路・送配電網・ガスパイプラインなど一部の公共建築工事を含む）

インド国内の自動車排出ガス規制 BS（バーラト・ステージ）は EU による同種規制を基にしており、BS-III は 2005 年以降、BS-IV は 2010 年以降に順次導入された。最新基準である BS-V は、2018 年以降に導入された。

## 10 月自動車統計 – 2 カ月ぶりに 2 桁成長

11 月 10 日、インド自動車工業会は 10 月の自動車統計を発表した。乗用車の国内販売台数は前年同月比 17.3%増の 34 万 1377 台で、2 カ月ぶりに 2 桁成長を記録。統計に含まれないタを除く自動車販売全体（乗用車、二輪車、三輪車）では、前年同月比 20.3%増の 231 万 4197 台である。メーカー別乗用車販売の上位では、前月から起亜とトヨタ・キルロスカの順位が入れ替わった。首位のマルチ・スズキは 16 万 8047 台で前年同月比 19.7%増、韓国の現代は 14.8%増の 5 万

5128台、地場のマヒンドラ&マヒンドラは35.3%増の4万3708台だった。トヨタ・キルロスカは前年同月比57%増の2万521台と大幅な伸びを見せたが、販売台数では4.4%増の起垂に届かなかった。統計に含まれていないタタ・モーターズは、電気自動車（EV）を含めて4万8337台（前年同月比7%増）と発表しており、前月と同じ総合3位につけている。

車種別では、スズキのコンパクトモデルが首位をキープ（「スイフト」「ワゴン R」など計8万662台）して、前年同月比9.5%増加。同ミニモデル（「アルト」など計1万4568台）は同41.6%減と落ち込みが続く。一方でUVの伸びが著しく、スズキのコンパクトUV（「プレッツァ」など計2万9259台）が前年同月比2.9倍で車種別2位につけた。現代のUV（「エクスター」など計2万851台）も同2倍と好調だ。

また、スズキのスポーツ用多目的車（SUV）は「グランドビターラ」など計2万5043台で前年同月比35%増、同ミニバンタイプ「XL6」の4367台は同75.8%増と伸びを見せている。

## モディ首相制作協力の「雑穀の素晴らしさを讃える曲」 グラミー賞にノミネート

【11月12日AFP】インドのナレンドラ・モディ（Narendra Modi）首相（73）が制作に関わった、雑穀の素晴らしさをたたえる曲が10日、グラミー賞（Grammy Awards）にノミネートされた。ノミネートされたのは、ファルー（Falu）さんとガウラブ・シャー（Gaurav Shah）さんが歌う「アバンドランス・イン・ミレット（豊かな雑穀、Abundance In Millets）」だ。最優秀グローバル・ミュージック・パフォーマンス部門にノミネートされた。2人によると、「作曲と演奏」にモディ氏が協力した。歌は「雑穀は素晴らしい」とたたえ、「もし世界を変えられるなら」と問いかけている。モディ氏が雑穀について説明する演説も含まれている。インドは世界最大の雑穀生産国で、世界第2位の輸出国。グルテンフリーのキビやアワなどの雑穀は水が乏しいやせた土地でも育つことから、モディ氏は2014年に首相に就任して以来、雑穀の生産・消費の拡大に力を入れてきた。ファルーさんは今年6月、この曲についてX（旧ツイッター）に、飢餓撲滅と貧困抑制を目指すモディ氏の「ビジョン」の実現に向け、モディ氏からアイデアを打診されたと投稿している。国連が今年を「国際雑穀年」と定めたのも、インドの提案がきっかけだった。9月にニューデリーで開催された20か国・地域（G20）首脳会議（サミット）では、雑穀中心のベジタリアンディナーが提供された。

## トヨタ - ベンガロールに新工場建設

11月21日、トヨタ自動車インド現地法人はカルナータカ州政府と覚書を締結。ベンガロール（バンガロール）市内に新工場を建設すると発表した。同社にとってインドでは3カ所目の工場となり、投資額は330億ルピー。2026年の完成後は年間10万台の追加生産が可能となり、新規で約2000人の雇用創出を見込まれている。

現地法人トヨタ・キルロスカ・モーターの吉村公一社長は、新工場建設は州内の雇用創出に貢献すると述べ、今後も州政府と協力しながら、世界クラスの地域エコシステムの構築に向け取り組んでいくと述べた。インドは昨今の経済成長によって中間所得層が拡大しており、国内の自動車販売台数は現在、中国、米国に次ぐ世界第3位にまでに成長している。これまで日系企業によるインドへの投資は自動車産業を中心に行われており、今後もインド国内の自動車市場は継続して右肩上がりの成長が予想される。

## **スズキ – SMG をマルチ・スズキの子会社に**

スズキは24日、インド子会社のマルチ・スズキの株式の追加取得が完了したと発表した。出資比率を1.7ポイント引き上げて58.2%にした。スズキの全額出資子会社であるスズキ・モーター・グジャラート(SMG)の全株をマルチに譲渡するのに伴い、その対価として約1284億ルピー(約2300億円)相当の株式を引き受けた。マルチ・スズキはインド北部ハリヤナ州、SMGは西部グジャラート州で自動車を生産している。スズキはSMGをマルチ・スズキの子会社にする方針を7月末に発表していた。今回の集約で事業の効率化を図る。

## **同時テロから15年 – 追悼式典でテロ撲滅を訴え**

インド最大の商業都市ムンバイで、日本人1人を含む160人以上が死亡した同時テロ事件から26日で15年となった。現地では追悼式典が開かれ、犠牲者の遺族たちはテロの撲滅を強く訴えた。2008年11月26日、インド西部のムンバイで武装したパキスタン人らのグループがホテルや駅などを襲撃し、出張で現地を訪れていた日本人1人を含む166人が死亡した。

事件から15年となった26日、現地の警察施設に設けられた慰霊碑の前では、追悼式典が開かれ、犠牲者の遺族や警察関係者が花を手向けた。事件をめぐっては、インド政府はパキスタンのイスラム過激派組織による犯行と断定し、パキスタン政府にこの組織の幹部らの処罰を求めているが、未だ実現していない。殉職した警察官の30代の娘は「どれだけ時間がたっても心の痛みは続きます。世界からテロがなくなることを願います」と語り、テロの撲滅を訴えた。この事件以降、インドでは大型の商業施設やホテルなどの入り口に金属探知機や、X線を使った検査装置が設けられるようになり、いままテロへの厳重な警戒態勢が続けられている。

以上